



TITLE:

# 支那イレフレーションと其の對策

AUTHOR(S):

谷口, 吉彦

---

CITATION:

谷口, 吉彦. 支那イレフレーションと其の對策. 東亞經濟論叢 1944, 4(1-2): 1-27

ISSUE DATE:

1944-09-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/128755>

RIGHT:

所究研濟經亞東 學大部國帝都京 內部學濟經

年四回(二月、五月、八月、十一月)發行

# 東亞經濟叢論

號貳・壹第 卷四第

月二十・九年九十和昭

支那インフレーションと其の對策……………	谷口吉彦
唐の天寶時代に於ける河西道邊防軍の衣糧給與に就きて……………	那波利貞
近世初期に於ける東亞貿易……………	金田近二
支那奧地產鹽技術の技術史的地位……………	島恭彦
支那貨幣小史……………	穗積文雄
孫文の民生主義……………	出口勇藏

(禁轉載)

賣發閣斐有肆書

# 支那インフレーションと其の對策

谷 口 吉 彦

## 一

支那インフレーションとは言つても、各地區によつて著しくその様相を異にする。周知の如く重慶地區は最も顯著なる惡性インフレーションを惹起しつゝある様であるが、その中でも重慶市内と地方農村との間、延安中心の西北地區と昆明中心の西南地區との間には、それらの相違を示してゐるであらうし、また和平地區においても、北支と中支と南支との間には、各々異なる現象形態を呈してゐる。併しこゝでは是等の支那全般にわたるインフレーションを問題とするものではなく、主として北支および中支の和平地區、ことに上海を中心とするインフレーションを主題とするものである。重慶インフレーションについては、すでに飯田藤次氏の優れたる研究報告が公刊され、中支物價については新宮健二氏の貴重な報告論文がある。

何よりもまづ第一に、支那インフレーションの現状把握を必要とするが、こゝでは詳細なる物價指數の統計を示すまでもなく、最近の物價騰貴は正しく顯著なインフレーションの兆候を示してゐる。これが果して惡性イン

フレと言ひうるか否かは姑らく後の問題とし、これを日本・滿洲國その他の東亞諸國に比すれば、正に他に類例を見ざる程度に達してゐる。而してかゝる物價騰貴の傾向は、すでに早く支那事變の段階より現はれたるものではあるが、併し最近の如き急速に顯著な傾向の現はれたのは、主として大東亞戰爭の勃發後にあることは、種々の統計資料によつて明らかに認めらるゝ所である。

同じく和平地區ではあつても、中支と北支とはまたそれ〴〵に特殊性を有するが、一般的には中支の主導性と北支の追隨性を認めねばならぬ。即ち物價騰貴の程度においても、その前後關係においても、中支は北支に對して常に主導的地位を有するものゝ如くである。而かも北支は最初に食糧品の騰貴より出發し、從つて問題は物資側または生産部面にあり、生活問題を中心とするに反し、中支においては綿絲布の如き衣料品の騰貴を中心とし從つて問題は寧ろ通貨側または流通部面にあり、囤積問題を中心とするものであつた。かゝる特殊性を認めながらも、われ〴〵は上海を中心とする中支經濟の地位に鑑み、また今日の問題性に顧みて、以下の考察では主として中支インフレーションを中心とするものである。

いま中支における大東亞戰爭勃發前の物價について見るに、當時すでに我方の通貨として、日銀券・軍票・華興券および儲備券など相前後して行はれたけれども、併し是等は當時なほ相當の勢力を有したる舊法幣との連繫の下に行はれた爲めに、大體においては舊法幣物價が支配的であつた。而して當時の舊法幣物價は主として上海の法幣爲替相場を中心として動搖し、特に昭和十五年秋の歐洲動亂までは、爲替下落の先行と物價騰貴の追隨傾向が顯著に現はれ、それ以後においては爲替下落よりも物價騰貴の傾向を顯著に現はしてゐた。

大東亞戰爭の勃發當初にあつては中支物價は極めて平靜に安定し、多少の反落傾向さへ現はれたのは、固より疾風迅雷的な皇軍の戰果によるものではあるが、經濟的には我方のリンク政策（一〇〇元對二五圓）によつて、當時すでに全くその支柱を失へる舊法幣價值を救ひたる爲めであつた。然るに昭和十七年二、三月の頃より舊法幣離脱の説行はれて法幣物價を高めたが、遂に六月に至つて法的に斷行せられ、一對二による新舊法幣の全面交換行はれ、ために舊法幣物價の急騰傾向を來たし、これが新法幣物價にも影響して之を騰貴せしめ、加ふるに歐洲および南太平洋戰局の影響もあつて、こゝに第一次の全面的物價騰貴を惹起するに至つた。

第二次の顯著な騰貴傾向は、昭和十八年初頭に行はれた對支新政策に關聯して現はれ、今日の問題にまで發展せるものである。即ち租界還付の斷行・治外法權の撤廢・支那の宣戰布告と共に、經濟統制の主體は吾國より支那側に移され、物資の移動制限も緩和せられ、こゝに支那側は初めて自己の責任において、商業統制總會を組織して、自ら物價統制に乗り出すことゝなつたが、商統會は下部機構の整備されざるために容易にその機能發揮せず、また其後に行はれた軍票の新規發行停止、儲備券による通貨統一等を見て、對支新政策をもつて我方の勢力後退の如く誤解または曲解し、加ふるにアフリカ及イタリヤ戰局の影響等もあつて、上海の投機囤積を刺激すること強く、その後の政治的・經濟的情勢はますますこの勢を助長して本年に及び、遂に今日の如き情勢を惹起するに至れるものである。

然らば今日の狀態はすでに惡性インフレの段階にあるかどうか、問題は何をもつて惡性インフレと認むるかによつて岐れるわけであるが、われわれは次の如き諸點より、すでに今日をもつて十分に惡性インフレの兆候を示

せるものと考へる。

第一に、通貨の膨脹が生産を刺激しつつある間は普通のインフレーションと認められるが、支那の近狀はすでに生産に對する刺激を失ひ、國民をあげて投機または囤積に狂奔せしめ、健全なる企業をすて、著しく生産を阻害しつつある。

第二に、通貨に對する國民的信認もまた重要な標準となるものであるが、支那においてはすでにこの信賴を喪失して、著しく流通速度を速め、また通貨に對する投機・逃避・換物運動を盛行せしめつつある。

第三に、資金の社會的循環機構の續く限りは、悪性に轉化する危険は少いが、支那の現狀においては、一たん放出されたる巨額の資金に對して、貯蓄・公債その他の方法によりて之を吸収する機構を有せず、この點より悪性インフレに轉化する危険が極めて多い。

第四に、信用インフレより紙幣インフレに轉する場合に危険を孕むものであるが、支那においてはすでに信用インフレの段階を過ぎて、紙幣の氾濫を來たさんとする傾向にある。

第五に、インフレーションの進行が在外的原因より在內的原因に轉する場合に悪性となるものであるが、支那の現狀はすでに物價騰貴を原因として物價を騰貴せしめ、インフレを原因として、インフレを惹起せしめつつある。

かくして何れの點より見るも、もはや悪性インフレの兆候は明確に認めざるを得ない。たと今日は尙ほ數十倍または數百倍の程度に止まり、かつて歐洲に見たるが如き高度の悪性インフレには達してゐないけれども、併し

之を自然の推移に放置せんか、急速なる奔騰を來たすべき諸條件は、すでに十分に具備されてゐると言はねばならぬ。

## 二

然らばかくの如き物價騰貴の諸原因は何か、最も一般的または根本的には、支那もまた交戦國の一つとして、一方には巨額の戦費支出があり、他方には物資の生産または供給の著減があり、かくして通貨側と物資側との逆比的運動の中に物價騰貴の素因を藏してゐる點では、他の交戦諸國と何ら異なるものではない。たゞ支那には他の諸國に見られざる種々の特殊事情があり、物價騰貴の諸原因においても極めて複雑なる諸事情の錯綜せる點において、他の諸國に多く類例を見ざるものがある。

まづ物資側の諸原因について見るに、第一に、國內民需生産力の減退は、交戦國ことに戦禍を蒙れる地域の農業工業において免れ得ない所であるが、支那においては特に戦禍に加ふるに治安の騷亂があり、ために作付段別の減少、自給作物への轉換、勞力・畜力の不足等より來る農産物の減退と、原料・食糧・勞力の不足より來る工産物の減退のために、食料品その他の生活必需品の著減を來たせることは言ふまでもない。

第二に、生活物資の出廻り即ち供給の不足が、生産不足を更に拍車づける所にも支那の特異性がある。即ち農村の自給化は已むを得ないとしても、廣大なる接敵地區における防害工作または物資爭奪戦、都市商工業の衰頹による物資集散機能の喪失、之に代るべき收買機構・收買方法・收買價格の缺陷等のために、奥地農村と都市間との物資交流を阻害せられ、都市における食糧品の不足と農村における日常必需品の不足を來たすことになる。

第三に、地方相互間の物資交流もまた輸送機關の不足・通貨價值の變動・物資移動の統制等のため甚だしく圓滑を缺き、例へば中支と北支、北支と蒙疆等の如く物資の偏在または不足を來たすこととなる。

第四に、歐米その他の第三國輸入は、すでに支那事變の勃發以來減退しつゝあつたが、大東亞戰爭の勃發と共に全く杜絶し、同時に南方諸國および日滿兩國よりの輸入も著減し、ことに軍票經濟の廢止と共にその裏付物資としての對日輸入も杜絶し、かくして對外輸入による生活物資の供給は殆んど不可能となつた。併し之は多くの交戰國に共通の事實であるが、たゞ支那は從來より著しき輸入超過國であり、農業國でありながら食料品および原料品の輸入國であり、さらに工業品としての日用必需品の輸入國であつたから、戰爭による輸入杜絶の影響は特に顯著であると考へねばならぬ。

第五に、かくの如き諸原因のために現實に物資の不足せるものも少くはないが、併し例へば中支物價騰貴の中心をなした綿絲布の如きは然らず、今後なほ三ヶ年の需要を充たすに足る在庫品を有すと言はるゝに拘らず、騰貴程度の最大なるは、現實の物資不足といふよりは、寧ろ物資不足の豫想に基づく投機的囤積の結果と言はねばならぬ。而かも逆にまた居奇囤積の結果は物資不足を來たさざるを得ない。

次に通貨側の諸原因として指摘するものは、第一に儲備券の單一通貨制に統一したことは、之に對する國民的信頼の不足と共に、これが増發を餘儀なくせしむることとなつた。蓋し從來は、中央銀行・中國銀行・交通銀行・農民銀行の如き各種舊法幣の外に、華興券・儲備券・軍票の如き新法幣も行はれ、是等の各種通貨が地域的に機能的に全體としての通貨機能を分擔し、而かも強力なる統制力を有する軍票がその中心となつて、よく物價



と通貨の安定を維持してゐた後を承けて、未だ十分にその實力を有するに至らざる儲備券の單一通貨に統一したことが、まづ通貨側原因の一として指摘されねばならぬ。

第二に、財政通貨と作戦通貨と交易通貨とは、從來は儲備券と軍票と華興券により代表的に機能されてゐたが、之が儲備券に統一せられ、而かも未曾有の大作戦の進展すると共に、財政通貨は同時に作戦通貨としての重任を負荷せられ、これが諸種の事情と相俟つて通貨増發の已むなきに至つたことも事實であらう。

第三に、中央銀行の金融統制力も、最近は次第に強化せられたけれども、尙ほ十分に思惑資金の供給を抑制する能はず、また法定預金準備金の同行への納入をも荏苒默過し、且つその納入方法の緩和を承認せるが如き、何れも尙ほ統制力の不足を示せるものと言へる。

第四に、一般金融機關の投機資金の供給に對しては、當局もその制限または禁遏の方策を講じつゝあるも、尙ほ甚だ不徹底にして無擔保貸付による投機助長の傾向大なるものがある。

第五に、不良金融機關の濫設に對しては、北支においては之が整理も相當に進捗しつゝあるが、中支においては未だ之が禁止を斷行せず、漫然として囤積資金の供給源を默認しつゝある。

第六に、支那特有の信用通貨はまた囤積資金の供給源となり、天津の發碼・發條の使用は禁止せられたるも、

中支の劃頭制度は依然として存續し、その濫用は囤積または投機を助長しつゝある様である。

第七に、長期預金の減少と短期預金の増大は、中支における顯著な事實として注意せられ、戦前には前者四割後者六割を常態としたが、大東亞戦争直前には前者二割、後者八割となり、最近では前者一割、後者九割の状態

にあると傳へられる。これは通貨側の原因であると同時に、寧ろその結果でもあるが、何れにせよインフレおよび之に伴ふ投機・囤積に關聯することは言ふまでもない。

第八に、上海遊資として知られる數十億の浮動資金は、すでに支那事變當初より上海を中心として盛に活躍したるが、大東亞戦争後はあらゆる機會と材料を捉へて、轉々としてその對象を替へて、投機・囤積・換物に狂奔し、最近にては更に上海より地方に進出して、物資買占・土地買収・金融機關濫設等に活躍しつゝある。

第九に、新舊法幣の價值關係を、従前の等價より一對二に切替へたことは、當時としては已むを得なかつたことではあらうが、之が必然に舊法幣物價を騰貴せしめ、延いて新法幣物價をも騰貴せしむることゝなつた。同時にまた新法幣と圓との比率はあらゆる努力を拂つて當初の比率を堅持しつゝあるが、支那インフレの進行と共に之が切替へに對する豫想または流言を生じ、これが急速に支那物價を騰貴せしめたことも屢々であつた。

最後に、通貨に對する國民的信認の喪失は、普通のインフレーションを惡性に轉化せしむるほどに重要なことは先きにも述べたる所であるが、通貨信認の根據としては、今日では發券準備の如きは殆んど問題とならず、その國の經濟力と政治力との綜合的結果と考へねばならぬが、この點に關する現代支那の缺陷が、儲備券に對する國民的信認の不足を來たせるものではないかと思はれる。而して通貨信認の缺乏は、通貨の流通速度を増大せしめて通貨數量の増大と同一の結果をもたらすことは言ふまでもない。

右の如き物資側および通貨側の諸原因は、何れも經濟的原因に屬するものであるが、この外に支那においては特に經濟外的の諸原因の重要性を見逃すことは出來ない。

その第一は、支那の國民性が永年の通貨價值動搖の生活に影響されて、通貨に對し著しく敏感となり、同時にまた通貨または物價に關して、特に個人主義的・利己主義的・投機囤積的となり、これが今次の如き諸種の政治經濟的事情に刺激せられて活躍するに至つたものと考へられる。

第二に、之に關聯して支那社會の歴史性はまた通貨價值に關する特殊性を示現するに足るものがある。古き清朝以前のことは姑らく措き、民國革命以後における政治的騷亂に伴ふ經濟生活の攪亂と通貨價值の動搖は、寧ろ支那社會の常態となり、かゝる歴史的變動に對應するための社會的準備が、今次の如き通貨變動に際會して現實化しつゝあるものとも考へられる。

第三に、現代支那における政治力の滲透不十分なることは、一方には前述の如く通貨に對する國民的信認を薄弱ならしむると共に、他方には投機または囤積の抑制を不可能ならしめ、また統制經濟の強化を困難ならしめて結局において惡性インフレの進行を阻止すること困難となる。

第四に、インフレ防止または統制經濟の成功しうるためには、強力なる政治力と共にこれを施策する官吏の清廉性を必要とするが、支那官吏の傳統的性格は、たとひ新政府の下においてさへ、その多くが貪官汚吏ではないとしても、必ずしもこれが適格性を有するものゝみとは考へられない。

第五に、現代支那の政治地理的な特殊性として、謂はゆる接敵地區において舊法幣地區と接壤し、而かもその經濟的影響は相互的といふよりは、寧ろ新法幣地區の受動的影響がより強い實狀においては、舊法幣地區における惡性インフレの影響を免れることは困難であり、これと運命を共にする危険のあることは十分に警戒せねばならぬ。

らぬ。

最後に、重慶側の政治經濟的謀略または宣傳の影響を最も敏感に受けて、特に最近では對支新政策の曲解、獨ソ戰線、伊太利戰線、西部戰線、太平洋戰線等における戰局推移の歪曲宣傳を鋭敏に反映して、事ごとに物價騰貴とインフレの進行を煽動しつつある。

### 三

一般に物價騰貴またはインフレーションは、緩慢なる漸進的傾向をもつて進行する場合には、謂はゆる好景氣の現象をもたらして、生産力の發展と國民雇傭の増大を來たし、國家産業および國民生活に好影響をもたらすものではあるが、併し今日の支那におけるが如き惡性インフレーションに至つては、その影響するところ重大にして、あらゆる方面に惡影響を及ぼすものである。

何よりもまづ支那自身の政治經濟に及ぼす影響は、全く放置すべからざる状態にあり、新中國建設の途上における一大障害となりつつある。

その第一は、支那政府に對する惡性インフレの影響は、豫算の實行困難となり財政の膨脹となつて、直接に甚大の打撃を與ふるのみならず、民生不安・思想惡化・治安騷亂等の影響を通じて、政府の政治力を問はることとなる。この點に關聯して興味ある事實は、重慶側においてはすでに三年前の民國三十年より、南京政府においては明年度より、實物財政に轉換しつつあることである。即ち一方では田賦物納制を創設すると共に、他方では官吏俸給の實物給與制を創始することによつて、政府の財政難を打開すると共に、官吏の生活保障をなさんとし

つゝある。これが對策上の效果は姑らく後の問題として、かくの如き新施策の現はれるに至つたことは、すでに深刻なる影響を支那政府に及ぼしつゝある證左といへる。

第二に、支那經濟に對する影響は更に深刻なるものがあつて、生産力の維持を阻害し、健實なる産業の發展を阻止することとなる。蓋し今日の如き惡性インフレの下においては、長期の生産投資をなし、または健實なる生産企業に従事するよりも、寧ろ短期の商業利潤ことに一攫千金的な投機利得の獲得に狂奔することとなるからである。

第三に、支那國民に對しては、一般消費者ことに俸給生活者の生活窮迫を來たし、貧富生活の隔絶を招來して民生不安および思想惡化より社會不安または治安擾亂を招くに至る虞なしとしない。併しながらこの點に關する支那特殊性の一つとも見らるべきは、これまで極端なる論者が支那には社會問題なしとまで言ふのは過言であるとしても、而かも尙ほかくの如き民生窮迫または貧富隔絶の極端に現はるゝ場合においても、比較的には社會問題・政治問題等の困難なる諸問題を惹きおこすこと少く、この點において歐米諸國または吾國における場合とは著しくその趣を異にすることもまた否定すべからざる事實である。

かくの如く支那自身に對して深刻なる影響を及ぼすのみならず、これと密接不可離の關係にある吾國の政治經濟に對しても、また重大なる影響を及ぼさざるを得ない。

第一に、最も直接には支那物價奔騰のために在支現地軍の自活困難、または軍費増大を免がれ得ない。蓋し在支軍の現地調辦主義が採られる以上は、支那物價騰貴の影響は直接的であり、また圓元比率の堅持せらるゝ以上

は、それだけ吾國の軍費増大を免がれないからである。

第二に、最も重要な吾國の戦力物資の支那における獲得または開發は次第に困難となつて来る。蓋し鑛産物を中心とする謂はゆる戦力物資は、支那の國民生活とは直接の關係なき物資であり、吾國の戦力増強には必要不可欠の物資であるから、これを開發して吾國に獲得することは、兩國共戦の大東亞戦争を完遂する上に、最も重要な問題であるに拘らず、悪性インフレによつてこれが著しく阻害さるゝに至るからである。

第三に、爲替交易調整特別會計の負擔増大を免がれない。蓋しこの特別會計によつて、現地の高物價と吾國の低物價の差額に相當する輸入損失を負擔することにより、戦力物資の輸入を確保しつゝ來たのであるから、兩國物價差の増大すると共に、之に比例して特別會計の負擔は増大せざるを得ない。

第四に、在支邦人の壓迫または衰頹もまた看過すべからざる問題となりつゝある。蓋し悪性インフレの影響は日華人によつて差別あるものではないが、併しその歴史的傳統と國民的特性によつて、華商または華人はよくその悪影響を免がれるのみならず、更にこの機會を極度に利用して、却つて巨利を獲得するもの少なからざるに反し、健實なる産業家または着實なる普通商業に慣れたる在支邦人は、かゝる時代に遭遇して著しく衰頹または没落の氣運を早めることとなり、日支間の經濟交通上に支障を來たすが如きこと無きを保し難い状態にある。

さらに支那とは特殊の經濟關係にある滿洲國に對しても、重大なる影響を及ぼしつゝある。その第一は、吾國の戦力増強に重要な寄與をなしつゝある滿洲國の重工業は、北支の資源ことに石炭資源に依存すること大にしてこの獲得に支障を來たすが如き場合には、滿洲重工業の計畫遂行にも支障を來たさざるを得ない。

第二に、兩國の通貨は等價關係にあるから、北支の高物價は直ちに滿洲國の低物價に影響して、北支への物資流出を來たさんとし、之を統制せんとせば密貿易を促進して、交易計畫を攪亂することとなる。反對に北支より滿洲國への輸出ことに北支苦力の對滿移動は、著しく阻害を免がれないこととなる。

最後に、大東亞共榮圈に及ぼす支那インフレーションの影響もまた看過すべからざるものがある。さきにも論じたる如く、大東亞諸國の理想的なる物價狀態は、指導國の物價を基準としてほど均衡狀態を保つにあるが、いまその一國たる支那に惡性インフレの進行することは、大東亞經濟の共榮的發展のために一大障害となるものである。具體的には圈内諸國間の物資交流にとり、また資金交流にとり、著しく制限的影響を與ふることとなる。

たゞ共榮圈の物資または資金の交流は自由主義的な營利移動ではないから、物價の變動は必ずしも直接に影響を及ぼすものではないが、併しに物價に關係なき計畫的交流とは言つても、國際收支を結果する有價移動である以上は、今日の支那におけるが如き惡性インフレーションの場合には、到底その影響を免がれざるを得ない。

ことに共榮圈内の通貨比率は、謂はゆる固定性を堅持しつゝあるから、自由主義經濟におけるが如き物價變動を爲替變動によつて調節する作用は停止してゐる。之に對して自由主義の立場における論者の中には、通貨比率を物價變動に照應せしめて變更すべきことを主張するものもあるが、併し支那におけるが如き惡性インフレに照應して通貨比率を變更するが如きは殆んど不可能であるのみならず、かりに之を斷行したとすれば、そのためにますます支那インフレーションを惡化せしめ、爲替比率の變更は全く無意味となる。これを更に新たな物價に照應せしめて變更したとすれば、結局において物價と爲替の惡循環を進行せしめて、際限なき爲替下落と物價騰貴を

招來せざるを得ない。何れにせよ、米英陣營におけるとほゞその時期を同じくして、東亞陣營の一角に悪性インフレの出現したことは、共榮圈全體として最も關心を要する重要問題であり、東亞共同の責任において之が全般的波及を阻止せねばならぬ問題である。

要するに支那インフレーションの問題は、たゞに支那自身にとつて最も重大な問題を包藏するのみならず、之と最も密接な關聯にある吾國および滿洲國に對しても由々しき影響を及ぼし、さらに大東亞共榮圈の全體としても見逃すべからざる影響を蒙るものである。従つてこの問題はたゞ支那自身の獨自の問題として徒らに之を傍觀することなく、況んや之をたゞ自然の推移に放任することなく、あらゆる努力を竭して之が對策を研究し實施せねばならぬものと考へる。

#### 四

支那インフレ對策の直接の責任は、言ふまでもなく支那側にある。對支新政策の結果として、支那經濟統制の直接の責任は吾國側より支那側に移讓され、物資統制および物價統制は支那側の手によつて行はるゝこととなつたから、インフレ對策の主體もまた支那自身に移り、支那は完全なる獨立國として、この問題を解決すべき責任と義務を有するわけである。併しながらすでにインフレ影響の考察によつても明らかにされたる如く、問題の影響するところは東亞全域におよび、従つて之が對策もまた獨り支那二國に限らず、その主體性はあくまで維持しながらも、他の東亞諸國ことに吾國および滿洲國の眞劍なる協力または援助の下に行はれるのでなければ、有效なる施策とはなり得ないであらう。



次に支那インフレ對策を考察するに當つて、最初に注意を要する點は、問題は極めて複雑にして困難である。従つて何等かの奇策または妙案をもつて、一舉に快刀亂麻的に之を解決することの極めて困難なことである。支那インフレ對策の困難なる所以は、第一に、政治地理的な地域的制約にある。即ち國民政府または吾國の施策の及び得ない廣大な敵性地區が残存し、この地區における悪性インフレの影響は直ちに當方の和平地區にも波及し而かも兩地區の經濟交通は之を完全に遮斷し得ざる状態にあり、加ふるに重慶敵性の謀略的宣傳と施策は不斷に進められつゝある現狀においては、インフレ對策の効果は著しく制約を蒙らざるを得ないからである。

第二に、大東亞戰爭の共同戰線を完遂するためには、支那に期待さるゝ經濟的負擔は決して輕微ではあり得ないからである。固より吾國は大東亞戰爭の指導國として、最大の負擔と犠牲を拂ひつゝあること言ふまでもないが、併し他の大東亞諸國といへども、各々その分に應じその最高能力を發揮して、この共同戰線に寄與せねばならぬ。例へば今次の支那作戰の如きも殆んどすべて吾國の兵力によつて行はれつゝあるが、併し之に伴ふ財政負擔の一部は、當然に支那政府もまた之を分擔すべきものであらう。また在支軍の現地調辦を賄ふだけの生活物資は、たとひ支那國民四億の生活物資に比すれば全體としては固より微々たるものではあつても、これが物的負擔は支那側に仰がねばならぬ。さらに重要な戦力物資の開発または供給は、支那の國民生活に直接の關係なき物資ではあるけれども、最大限度に之を日滿兩國のために確保せねばならぬ負擔がある。かくして支那經濟にとつては決して輕微にはあらざる負擔ではあるが、併し大東亞戰爭の共同遂行より来る、絶體的要請である以上、これを免がれることは出来ないであらう。この點からもまたインフレ對策の困難性を加重することとなる。

インフレ對策はかくの如く複雑にして困難ではあるが、併し全く不可能といふわけではない。かりに一刀兩斷的に之を解決することは不可能であるとしても、われ／＼は尙ほ之に絶望することなく、あらゆる角度よりあらゆる對策を綜合的に施策することによつて、少くともその進行を阻止し、或は多少でもこれを回復せしむるための努力を惜しむべきではないと考へる。

最初にまづ通貨側に對して採るべき對策はないか、第一に、通貨に對する國民的信認の向上は、最も重要な根本問題であり、結局は支那の政治力と經濟力との綜合的判斷に依存するものであるから、何よりも大東亞戰爭に對する絶對必勝の信念を確立せしむることが最も根本的の對策である。たとひ一時的の戦局推移は如何に變化することはあつても、徒らに敵側の謀略的宣傳に迷はされて之を曲解または危惧することなく、最後の完勝を確信して戦争努力を最高度に發揮しうるやう理論的に理解せしめ確信せしむることが何よりも必要であるに拘らず、この方面の施策は支那側においても吾國としても殆んど有効に行はれてゐない。ことに從來のわが思想對策または文化對策が若しあつたとしても、その中心目標の明確ならざる點と、その對象を最下級の民衆に求めた點に誤謬があつた。支那思想對策の目標は、言ふまでもなく、必勝信念の確立と之による戦意昂揚を中心とせねばならず、その對象は寧ろ支那最高の知識階級を狙はねばならぬ。これは極めて間接的施策の様ではあるが、併し儲備券に對する國民的信認向上の根本策である。

同時に重要な他の根本策は、支那經濟の再建設にある。たとひ戦争遂行の過程においても、否むしろ戦争遂行の過程なるが故に、一方には農業増産政策を急速に推進せしめて國民生活を確保し、他方には鑛工業増産を徹

底せしめて戦力物資を確保せねばならぬ。かくして支那經濟再建の緒に就けば、政府の威信と中央銀行の信用を加へて、新法幣に對する國民的信認を向上せしめうるであらう。

これに關聯して更に重要なものは、國民政府の政治力を強化するにある。成立以來すでに四ヶ年を閲する南京政府の政治力は今なほ十分に強力なものとはなつてゐない。如何なる方策によつて之を強化しうるかは、こゝでは直接の論題ではないが、要するに政治力は物質力よりも寧ろ精神力に依存するものであるから、革新的な新政治を強力に推進しうる政治家を必要とする。

通貨信認の向上策として更に重要なものは、一般に支那統制經濟の擴充強化にある。今日ではもはや通貨に對する物的準備の如きは問題にあらず、通貨信認は主としてその國の強力な政治力を背景とする經濟統制の強弱に依存するといふも過言ではない。然るに上海を中心とする中支經濟は、世界諸國の最後まで自由經濟の殘存した地域であり、作戰上の必要に出でたる我方の部分的な統制は別として、全體としては昭和十八年三月まで未だ統制經濟の域には達してゐなかつた。併しながら上海のみ世界の孤島として自由に殘存しうる筈はない。對支新政策への轉換と共に、支那自身の責任において漸く統制經濟の段階に入ることゝはなつたけれども、併し多くの國において經驗したると同じく、支那においても最初の段階は謂はゆる自治統制より出發し、商業統制總會の下に商工公會をその下部機構として活動せしむることゝなり、爾來二ヶ年を経過して尙ほ殆んど何等の進展をも示してゐない。元來支那の如き國情において謂はゆる統制經濟が果して效果的に實行されうるか否かについては、最初より多くの議論の存したところであり、悲觀論者もまた決して少くはなかつたけれども、併し今日の段階におい

て經濟統制の必要不可欠なることは論者といへども之を認めざるを得ない。われ／＼もまた吾國におけると全く同一の統制方式がそのまゝ支那にも效果的に行はれるとは思はず、支那には支那独自の具體的方策を必要とするであらうとは考へるが、併し何等かの形態における統制經濟の必要なることは、支那といへども決して例外を許さるゝものではないと考へる。而かも支那の如き實情において、今日まで行はれつゝあるが如き自治統制の方式では、殆んど全くその効果を期待することの出来ないことは、すでに過去二ヶ年の經驗に徴して明らかである。今や支那統制經濟は、強力なる政治力の發動による新たな國家統制の段階に轉換せねばならぬ。これなくしては新通貨に對する國民的信認を回復して、惡性インフレーションを防遏することは恐らく困難であらうと思はれる。

第二に、通貨發行量を出來うる限り制限することは、今日において尙ほ十分に考慮さるべき問題であらう。むろん戦争遂行上に必要なる通貨の發行は著しく之を制限することは出来ない。儲備券は財政通貨と同時に作戰通貨となつてゐるから、作戰に必要な通貨の發行、戦力物資の收買または戦力資源の開發に必要な通貨の發行の如きは、如何ともすることは出来ないが、併し是等の經費といへども出來うる限り之を節約すると共に、他の方面への支出たとへば不急不要事業への支出、政府の消費的支出の如きは、極力これが節減を加へねばならぬ。

この點において先きに述べたる田賦物納制および實物給與制の採用は、國民政府の財政的通貨發行を著しく縮減して、インフレ抑制の上に大なる効果をもたらすであらう。通貨制限上に尙ほ一つ有效なる方策は、現金通貨より信用通貨への轉換を施策するにある。蓋し先にも論する如く、惡性インフレの特徴の一つは、信用インフレより紙幣インフレに轉化する點にあるから、信用通貨の利用によつて紙幣の代りに小切手による預金振替を用ふる

ならば、著しく通貨發行量を制限しうるであらう。たとひ先きにも論ずる如く支那特有の信用通貨の濫發が囤積資金を供給して、却つて物價騰貴を促進したる事例に鑑み、信用通貨の利用も極力これを制限して、絶対に必要な物資交流に關するものだけに限らねばならぬ。

第三に、通貨流通量の回收策として、吾國におけるが如き國民貯蓄または公債消化の如き有效なる方策を急速に實施せねばならぬ。蓋し一方には前述の如き通貨發行量の制限を行ふとしても、戰時においては何れの國でも之には一定の限度があつて、如何ともすべからざる部分があるから、他方において極力これが回收策を講ぜねばならぬ。支那インフレの激化は寧ろ主としてこの回收の困難から出發したとも見られるのであつて、たとひ如何に大量の發行があつたとしても、他方に之に相當する回收の行はれる場合には、さきにも論ずる資金の社會的循環機構が成立して、今日の如き惡性インフレは進行しなかつた筈である。

然らば支那において有效に行はれる通貨回收策如何、この場合にもまた一般インフレ對策におけると同じく一舉にして快刀亂麻的な效果を期待しうる唯一の方策の如きは考へられない。可能なるあらゆる方策を、あらゆる角度より施策することによつて、國民のあらゆる階層より剩すところなく餘剩購買力を吸收せねばならぬ。ことに困難なるは地方農民層に對する通貨回收策である。これに對しては物による回收と預金による回收より外に途がない。即ち國內原料を利用する中小工業を興して日用必需品を生産し、之を比較的高價に配給して、地方農民の生活確保と購買力吸收を狙ふことが出来る。また農民預金の吸收のためには、合作壯その他の農村金融機關を擴充し且つ預金利息を思ひ切つて引上げることが必要であらう。併し通貨回收策は都市階層に對して更に重要

であつて、こゝでは所得税・取引税・超過利得税・消費税等の高率課税により、同時に投機または囤積を抑制することも出来る。また彼等の心理に投ずる彩票・賽馬・割増附の公債・債券・預金の如きも一方法であらう。ことに長期の定期預金を何等かの方法によつて奨励する必要がある、そのためには彼等の間に信用ある民間銀行を利用する必要があらう。

第四に、上海遊資に適當なる對象物を供與することも必要である。理想的には之を國策會社その他の健實なる生産事業に誘導するにあり、そのためには相當の高利潤を認めねばならぬ。併し今なほ高利商業資本の性格を有する彼等をして、俄かに低利産業資本に轉換せしめることは困難であるとすれば、その舊來の性格そのまゝで之を他に轉用せしむる方策として、例へば證券取引所または商品取引所を新設することによつて、實社會に害毒を及ぼさざる別世界において、彼等の自由なる投機的活動を許し、こゝに遊資を誘導するのも一つの應急策として考へられる。

第五に、中央銀行の強化策として、最も根本的にはその國家性を強化せしめ、同時に單なる商業銀行の中央銀行たるのみならず、農・工・商・貿易その他すべての金融機關の中央銀行たらしめねばならぬ。國家性を強化すると共にその人的陣容を強化して、首腦者および中堅行員を充實し、中央銀行の國家的使命を達成するに遺憾なからしむべく、そのためには吾國の中央銀行および金融組織を他山の石として研究實施すべき問題が多いと思はれる。何よりも中央銀行が直接に民間事業に關係するが如きは、即刻に禁遏されねばならぬ。中央銀行の物的基礎の如きは今日では重要な問題ではないが、併し支那民衆に對しては、例へば國有の土地・不動産および財産の

如きを發行準備として充當することは、銀行に對する國民的信認を向上する上に有效なる方策であらう。

第六に、一般金融機關の整備充實もまた之と平行して斷行されねばならぬ。不良金融機關の信用濫發がいかに支那インフレを激化せしめたるかは、さきに論ずる所であるが、かゝる弱小不良機關の整理は即刻に行はれて、投機または囤積資金の給源を斷たねばならぬ。併し同時に他方には、中央銀行の統制の下に健全なる中小規模の金融機關を設置する必要がある。ことに上海以外の地方および奥地農村への金融網を整備充實せしめて、一方では地方産業の振興と増産に資し、他方では前述の餘剩購買力の吸收に努めねばならぬ。

最後に、最も根本的にして重要なものは、資金統制の強化策である。即ち投機または囤積の目的よりする資金の貸出は絶対に禁止せねばならず、そのためには結局は一定額以上の貸出または排出を制限する外に途はないであらう。同時に資金の國內移動および對外移動を統制または管理する必要がある。さきにも述ぶるが如く今日のインフレ激化の原因は固より單純ではないが、併しその最も重要なものは上海を中心とする投機または囤積にあると見られるから、これが活動の根源たる資金を強力に統制または管理するにおいては、爾他の諸方策と相俟つて、必ずや有效なる結果を期待しうるであらう。

## 五

支那インフレーションの最も重大なる諸原因が主として通貨側に存する以上、これが對策の重點もまた主として以上の如き通貨側の諸對策に置かるべきことと言ふまでもないが、併し之と共に物資側における諸對策もまた決して輕視さるべきではない。今その重要な二、三の對策を指摘すれば

第一に、農業増産計畫を急速に實施し、食糧増産による民生確保を計らねばならぬ。そのためには農民離村を

防止し、都市遊民の農村疎散を必要とする。都市遊民の集中傾向は事變以來の顯著な事實として、何れの點より見るも最も憂慮すべき問題であるが、惡性インフレーション對策の見地より見るもまた之を農村に疎散せしめて、自給自足を目標とする小作農または自作農に轉化せしめることとする。これを實行するためには、都市生活を必要とする容觀的證明なき限り、即ち公的に認められたる都市職域を有せざる限り、すべて強制的に疎散せしむる外に途はない。之によつて少くとも今日の都市人口は三分の一または四分の一に減じ得るであらう。他方に在來農民の離村を禁遏し、之に對しては自給策以上に増産計畫を實施して都市人口の營養給源を確保せねばならぬ。そのためには收買機構および收買價格を是正して、農家經營を改善するのでなければ、離村防止を合理的ならしむることとは出来ない。自給農たると販賣農たるとを問はず、支那食糧増産對策として、何故に甘藷増産策を採らないか、地大物博の支那においては、耕地の餘裕はまだ／＼南京市内においてさへ尙ほ廣大に残されてゐる。之を剩すところなく利用して、甘藷増産策を急速に實施するならば、食糧問題の如きは立ちどころに解決されると思はれるに拘らず、今日まで全く着手されずにあるのは何故か、われ／＼の理解しえざる所である。

第二に、中小工業の振興による生活必需品の増産もまた急速に進められねばならぬ。自給原材料を利用する加工食料品または家庭必需品の小規模生産を家内工業的に都市周邊または地方都市に振興せしめることは、今日においても決して不可能ではなく、民生確保のためにも、通貨吸收のためにも、極めて重要である。たゞこのためには動力または燃料問題の隘路を開ねばならず、北支石炭の轉送問題が重要となつて來る。即ち石炭割當制と製品供出制をリンクせる配給制度が必要となるわけである。

第三に、物資統制機構の整備擴充を必要とする。今日はまだ／＼自治統制の段階にあつて、商業統制總會の下



に同業公會および合作社をその下部機構とせんとしつつあるが、併し支那の現狀において民間の自治統制が如何なる結果をもたらすかは、すでに周知の事實である。たとひ現實の統制または配給機關としては、かくの如き既存の民間機關を利用するとしても、物資統制そのものは國家の責任において遂行さるゝ國家事業として、即ち國家統制として斷行されねばならぬ。少くとも重要生活品に關しては、その收買より配給に至るまで、強力なる國家統制の下に掌握されねばならぬ。そのためには強力なる政治力と廉直なる官吏道を必要とし、これは支那の現狀において即刻に實現は困難ではあるが、併し少くともこの目標に向つて努力する必要がある。この點について吾國の比較的に成功せる食糧營團の如きは、そのまゝに支那に適用されうるか否かは別として、少くとも他山の石として注意されねばならぬ。ことに支那においては收買價格の適正化を必要とし、要すれば吾國におけるが如き二重價格制および供出報酬制の採用をも考慮すべきであらう。

第四に、物資の國內交流または配給を圓滑ならしむるためには、その機構または方法を整備すると共に、これが物的輸送を圓滑化することも今日の重要問題である。そのためには鐵路・舟路・道路の物的手段を擴充することとも必要であるが、併し寧ろ今日の實狀に即して自給的輸送即ち主として人力および畜力による原始的輸送の工夫を必要とする。輸送といへば直ちに汽車またはトラックを聯想するが如きは、少くとも今日の實狀に即應するものでない。同時に支那における輸送上の障害の一つは、輸送路上における種々の雜税にある。これが全廢を斷行するでなければ、たとひ輸送の物的手段を整備したとしても、圓滑なる物資移動は期待され得ないであらう。

第五に、在庫物資の統制または利用を有效に行ふことも物資側對策の重要な一面である。上海には今なほ巨大なるストックありと傳へられ、これが投機囤積の對象となりつゝ惡性インフレを激化せしめつつあるから、何

よりもまづ重要物資の登録制を實施し、その所有者と所在とを明らかにし、自由なる處分を禁止して之を保管せねばならぬ。更に要すれば進んで之が強制買上げを斷行してその所有を政府機關に移さねばならぬ。綿絲布についてはすでに昨年八月以來これが實施を見つゝあるが、今日では更に之を改善擴大する必要がある。最後にその管理または買上げ物資を最も公正有效なる方法によつて利用せねばならぬ。之を再び民間投機に對抗して物價對策上の犠牲に供すべきではなく、最少限度の民生確保のために公正配給を行ふか、または物資報償制の對象として利用すべきであらう。

第六に、消費規正の方法として生活必需品の配給統制を強化する必要がある。最少限度の生活必需品については、吾國におけると同じく支那の保甲制度を利用して、割當制または切符制を實施し、最低生活へのインフレ侵入を阻止することは、支那においても必要であり且つ可能であると考へられる。たゞこれが成功するためには、種々の諸條件を必要とし、特に政治力の強化と下級官吏の清廉を必要とし、この點から支那統制經濟の前途を悲觀する論者も少くないが、併しわれゝは必ずしも悲觀しない。最少限度の絶対必需品に限つて、こゝに努力を集中すれば、一般統制經濟については兎も角、この範圍においては必ずしも不可能ではないと思はれる。

最後に、一般的に通貨經濟から物資經濟に轉換することが必要である。その一つとして近く實施されんとする田賦物納制と實物給與制の如きは最も注目に値する新政策として期待される。蓋し之によつて少くとも先づ官吏の生活を保證してその政治力と清廉性を高め、統制經濟への適格性を向上させることが出来る。次に田賦物納制の結果として財政收入を増加し且つ確定して、政府の財政的基礎を確立し、悪性インフレの財政的影響を遮斷することが出来る。第三に、實物給與制の結果として財政支出を縮減し、悪性インフレによる財政の惡循環的膨脹

を阻止することが出来る。第四に、之によつて地主・商人による主要糧食の囤積居奇を抑制しうるのみならず、政府の手に大量の實物を掌握して、生活確保または市場操作に貢獻することが出来る。かくしてこの新政策はたゞにインフレ對應策としてのみならず、インフレ抑制策としても相當の効果を期待しうるものである。たゞ之に對しては重慶の經驗によつても明らかなる如く、地主側に強力な反對があり、且つ貪官汚吏の乘ずる機會も生ずるから、之を理想的に實行しうるためには、また強力な政府の政治力を必要とする譯である。

およそ以上の如き通貨側及び物資側の諸方策を強力に全面的に推進せしむべき直接の責任は國民政府にあり、吾國は對支新政策の結果として、一應この責任を支那側に委譲したものであるが、併し吾國といへども大東亞戰爭の指導國として、共同の責任において大東亞建設に邁進しつゝある以上、これをたゞ對岸の火災視して徒らに拱手傍觀すべきではない。且また支那インフレの吾國に對する直接の影響も決して輕視を許されない。即ち現地調辨問題として、また在支事業および在支邦人の死活問題として放置し得ざるのみならず、戦力物資の獲得および戦力資源の開発上より見るも、特に重要な緊急問題を提起するものであるから、積極的に國民政府の施策に協力し之を督勵して、殊にその政治力の強化に對してあらゆる援助を惜しむべきではないと考へる。

之と同時に吾國はまた吾國として、かくの如き支那の悪性インフレに對處すべき諸方策を考究せねばならぬ。即ち支那のかくの如き状態に拘らず、大東亞戰爭の完遂に寄與せしめうるためには如何なる對策を必要とするかはそれは要するに戰爭遂行に必要な戦力資源の開発と、戦力物資の獲得をして支障なからしむるにある。

まづ第一に、戦力物資の獲得のためには、支那インフレに對しては一應これに追隨して、現地においては高價

なる現地價格に従つて收買し、之を吾國にもたらして低位なる吾國の價格をもつて之を分配せねばならぬから、かくの如き物資の交流は巨額の損失を豫想せしめ、従つて從來の營利貿易の全く成し得ざるものなることは言ふまでもない。従つて損益を全く度外視して國家的任務を遂行しうる交易營團の如き機關をして之を擔當せしめねばならぬ。而して他方に通貨比率の固定せる以上、これが決濟に關して困難なる問題を豫想せしめるが、之に對しては兩地において個別的に獨立に、一應の處理方法を講すべきであらう。即ち現地收買資金の不足は之を現地にて調達し、内地販賣資金の過剰は之を内地にて利用し、兩地に獨立にその資金を保持し運用するの便法を講じこれが將來の解決策は事情の變化に應じて將來適當に處理すべきであらう。

第二に、支那の戦力資源の開発もまた、悪性インフレの如何に拘らず、急速に進展せしめねばならぬ。大東亞戦局の進展と共に、南方交通の困難を加ふるに従ひ、支那その他の大陸資源の重要性はますます加重されつゝある今日において、これが北支および中支の悪性インフレによつて阻止されるが如きこととなつては、今後の戦争遂行に支障を來たすが如きことなきを保し難い。大陸資源の開発をしてインフレーションの悪影響を免れしめんためには、すべて現物主義に環元するにある。例へばこの場合に最も重要な労働確保のためには、現物給與制を採り且つ賃銀支拂方法または勤勞報償制の如きもすべて現物制を採用し、出來うる限り通貨の使用または基準を排除するにありと思はれる。

以上、支那インフレーションに關する諸問題ならびに諸對策につき一應の考察を遂げたわけであるが、最後に支那インフレの特殊性として注意すべき二、三の諸點を要約して結論に代へることとする。

第一に、支那インフレーションは物資不足よりは寧ろ通貨過剰より來る點に、即ち尙ほ相當量に残存する物資に對する投機または囤積より來る點に、その原因上の特殊性を認めうる様である。

第二に、惡性インフレーションの國民生活に及ぼす影響についても、支那においては決して一律に一般的窮迫をもたらすとは限らず、國民の階層によつて著しく相違する影響を受け、從つて國民生活に著しき高低を生じ、貧富の生活懸隔を顯著に露呈しつゝある。

第三に、それにも拘らず、惡性インフレの結果は、支那においては必ずしも重大なる社會問題を惹起するとは限らず、また社會不安も重大ならず、政治的責任も深刻ならず、之を吾國または歐米諸國に比較して、その社會的・政治的影響の相當に異なるところにも、支那インフレーションの特異性を認めうる様である。

第四に、併しながら吾國として特に注意を要する點は、かゝる惡性インフレーションの原因または責任をすべて吾國側に轉嫁して、一に對日物資供出のために惹起されたるものゝ如く曲解または強辯することによつて、之を排日・抗日の具に供せんとする點にある。この點より見るも吾國としては決して之を拱手傍觀することなく、これが諸對策の效果的遂行に對して、眞劍なる援助または協力を惜まず、問題の解決に向つて最善の努力を致すべきであらう。

最後に、吾國の直面より戦力増強の立場より重要な點は、かくの如き支那インフレーションに拘らず、如何にして戦力資源を開發し、戦力物資を獲得しうるかにあり、差當りこの點に重點をおいて、吾國として採るべき緊急對策を講ぜねばならぬと考へる。(一九・一二・二五)